

EX STAGE”古の物語世界

| 話者 | 台詞 / ト書き |
|--------|---|
| | ■イベント会場 |
| ステージMC | ……これでプロリーグ参入から 無傷の5連勝！ いや、絶好調ですねマチス選手！ |
| マチス | あんまり好不調の波については 考えないようにしている。 とにかく、目の前のステージだけを―― |
| | ■ライブハウス |
| キョータロー | ……は一、今の配信凄かったな 【ユーザー名】。 |
| キョータロー | あれからしばらく経つけど、 マチスのやつ、ますます腕を 上げてるって感じだな。 |
| イオン | ふむ……ACTコントロールが 更に洗練されていると感じました。 実力は健在です。 |
| イオン | いずれ来る再戦の時に備えて、 今のうちから対抗策を考えましょう ユーザーさんっ。 |
| キョータロー | 再戦って……さすがにしばらくは ないんじゃないか？ 俺らだって暇なわけじゃねえし。 |
| イオン | いいえ、キョータロー。 いついかなるタイミングでその機会が 訪れてもいように準備することが… … |
| | //SE:メール着信 |
| イオン | む……すみません。 話はまたあとにしましょう。 ユーザーさんにメールです。 |
| イオン | 差出人は…… シャティル社のイムランからです、 ユーザーさん。 |
| キョータロー | イムランだと？ あの連絡係のお子様か？ おい、なんて書いてあるんだ。 |
| イオン | 大事な用件があるので シャティル社のオフィスまで 至急来てほしい……とのことです。 |
| キョータロー | 大事な用件で……まさか本当に リターンマッチのお誘いかよ？ と、とにかく行ってみるか。 |
| | ■渋谷駅周辺 |
| ミヤコ | ご無沙汰しております 【ユーザー名】様。 急のお呼び立て、申し訳ありません。 |
| ミヤコ | 早速ですが、こちらへどうぞ。 車を用意しております。 |
| | ■シャティル社 一特別戦略室一 |
| キョータロー | はあ……いくつセキュリティを 通らされたのやら……。 ここが終点か？ |
| ミヤコ | イムラン様、 【ユーザー名】様達を お連れいたしました。 |

| | |
|-------------|--|
| キョータロー | ん？ おい、【ユーザー名】 普通、ただの連絡係に『様』つける か？ |
| イムラン | やあ、ようこそようこそ！ 待ってたよ！ |
| イムラン | 改めて、プラナ・カハーニーへの 全面的な協力、シャティルジャパンを 代表してお礼を言わせてもらうね。 |
| イオン | 代表……。 イムラン、あなたは『ただの連絡係』 だったのではないのですか？ |
| イムラン | ……。あー、そんなこと言ったかもね。 あはは、ごめんね！ あれウソ！ |
| キョータロー | ウソ！？ |
| イムラン | 改めまして、指向性ダウンロードの 開発者アード、プラナ・カハーニーの 総責任者イムランです！ |
| キョータロー | このお子様が……。総責任者！ しかも、指向性ダウンロードの 開発者だあ！？……。マジかよ。 |
| イオン | ふむ。あなたの肩書きは理解しまし た。 それで、ユーザーさんに どういったご用でしょうか？ |
| キョータロー | お前もちょっとは驚けての……。 ……。はあ、まあいいや。 用件については俺も気になるし。 |
| イムラン | そうそう、それなんだけどね。 実はさ…… |
| ハンプティ・ダンブティ | あつ！ 【ユーザー名】だ。 いむらん、つれてきてくれたの？ |
| キョータロー | うわ、なんだこのACT！ 急に出てきやがって…… |
| ハンプティ・ダンブティ | はじめまして、 【ユーザー名】。 わたし、ハンプティ・ダンブティ。 |
| ハンプティ・ダンブティ | わたし、どうしてもあなたにあいたくて いむらんにたのんで つれてきてもらったの。 |
| ハンプティ・ダンブティ | ねえ、【ユーザー名】。 おねがい……。 わたしの『しゅじんこう』になって！ |
| イオン | ……。主人公？ どういう意味でしょうか？ |
| イムラン | どうもそのままの意味らしい。 彼女曰く、『物語には主人公が必要』 ……。ということらしくてね。 |
| キョータロー | いきなり話が読めねーよ！ だいたいこのACTなんなんだ？ こいつもプラナ・カハーニーなのか？ |
| イムラン | そうとも言えるし、違うとも言える。 ただひとつ確かなのは、僕は彼女の ような存在を確かめるために―― |
| イムラン | 指向性ダウンロードを……。そして プラナ・カハーニープロジェクトを 手がけたんだということ。 |
| イムラン | 彼女はね……。『概念』なんだ。 普通のACTとは違う。人の手によって 作られた『キャラクター』じゃない。 |
| イオン | 概念――ではそのACTは wiz-dom自身によって生み出された もの……。ということですか？ |
| イムラン | ……。へえ。キミ、ACTなのに ずいぶんと話が早いんだね。 |
| イムラン | そう言えば……。最初に会った時から 少し気になっていたんだけど……。 キミって『何の』キャラクター？ |

| | |
|-------------|---|
| イオン | わたしは……イオン＝ミルナ。 わたしはこのレイヤードの…… |
| ハンプティ・ダンブティ | ……まって。わたし、わかっちゃった。 【ユーザー名】と いおんは……そういうことなのね？ |
| ハンプティ・ダンブティ | ……いむらん。わたしをつかって。 わたしをすてーじにあげて。 |
| ハンプティ・ダンブティ | 【ユーザー名】が わたしのしゅじんこうになるには わかってもらわないといけない。 |
| ハンプティ・ダンブティ | わたしのほうが……いおんよりも すてきな『おはなし』を してあげられることを……。 |
| イオン | ……！！ |
| キョータロー | い、いよいよわけわかんねーことにな ってきた感じだぞ……。 ステージって言ったか？ |
| イオン | それは、バトルに勝つことで ユーザーさんを自分だけの『主人公』 に したい……ということですか？ |
| ハンプティ・ダンブティ | しゅじんこうは、ひとりだけ。 ほかの『おはなし』のしゅじんこうには なれないでしょう？ |
| ハンプティ・ダンブティ | だから、わたしの『おはなし』のほうが おもしろかったら—— |
| ハンプティ・ダンブティ | 【ユーザー名】は もう、いおんの『おはなし』は きかないでほしいの。 |
| イムラン | ふむ……これは興味深い。 どうやらハンプティ・ダンブティは、 本気でキミのことが欲しいみたいだ。 |
| キョータロー | んな無茶な……。 どんなACTを使うかなんて ユーザーの自由だろーが。 |
| イオン | はい、そのとおりです。 すべての選択権は ユーザーさんにあります。 |
| イオン | ……が、それはそれとして、 挑戦された以上は受けて立つのが、 英雄の定めというもの。 |
| イムラン | はは、なるほど。キミのACTは バトルする気満々みたいだけど…… どうする？ |
| イムラン | ボクは、ハンプティ・ダンブティの 好きにさせてあげるつもりだ。 それが望みと言ってもいい。 |
| キョータロー | おいおい、バトルするのは もう決定……みてーな空気にな っちまってるけどよ……。 |
| キョータロー | こんな一方的な条件、 まともに取りあうことねーって、 【ユーザー名】。 |
| 選択肢A | イオンを手放す気は無いから |
| イオン | おお、ユーザーさん……。 たとえどんな条件でも勝負から 逃げない姿……さすがですっ。 |
| 選択肢B | 負けないから大丈夫 |
| イオン | うふふっ。そうですね。 ユーザーさんとわたしが 負けるなどあり得ませんっ。 |
| 選択肢合流 | |
| ハンプティ・ダンブティ | ……じゃあ、はじめましょう。 だいじょうぶ。あなたも、わたしの 『おはなし』をきけばわかってくれる。 |

| | |
|--------|---|
| イムラン | 悪いね、 【ユーザー名】。 この展開は、ボクも予想外だったよ。 |
| キョータロー | んなこと言いながら お前、ニッコニコじゃねーか。 めっちゃ楽しんでるだろ！？ |
| イムラン | あはは！ 予測のつかないことほど 面白いことはないよね。 久しぶりにボクもわくわくしているよ。 |
| キョータロー | まったく……俺だけ蚊帳の外ってのが 微妙に癢だけどよ…… やるからにはわかってるよな？ |
| キョータロー | 勝てよ！ 【ユーザー名】！ |
| イオン | 心配いりません、キョータロー。 ユーザーさんは必ず勝ちます。 |
| イオン | だから、ユーザーさんを信じて いつもどおりにサポートします。 それがヒロインの役目ですつ。 |

| 話者 | 台詞 / ト書き |
|-------------|---|
| | //ハンブティ・ダンブティとのバトル |
| ハンブティ・ダンブティ | わたしは、おはなし。 わたしも、おはなし。 |
| ハンブティ・ダンブティ | あなたにこれから、すてきなおはなしを たくさんたくさんきかせてあげる。 だからわたしにもきかせて？ |
| ハンブティ・ダンブティ | 【ユーザー名】の おはなし……。わたしといっしょに もっとすてきなおはなしをつくりましょう？ |
| イオン | いいえ、ハンブティ・ダンブティ。 ユーザーさんはもう自分の運命を 自分で選び取っています。 |
| イオン | ユーザーさんはあなたの物語の 『主人公』にはなり得ません。 |
| イオン | なぜならユーザーさんは…… このレイヤードの英雄ですから。 |
| ハンブティ・ダンブティ | ならその『えいゆう』のおはなしも わたしのなかにいれてあげる。 だってわたしは、おはなしだから。 |
| ハンブティ・ダンブティ | みらいえいごう、ずっとずっと かたりつがれるもの……。 |
| ハンブティ・ダンブティ | わたしといっしょに 【ユーザー名】も えいえんになりましょう？ |

| 話者 | 台詞 / ト書き |
|-------------|---|
| | ■シャティル社 特別戦略室■ |
| ハンプティ・ダンブティ | ……そんな……どうして？ 【ユーザー名】は、 わたしのおはなし……きらい？ |
| イオン | ………。 |
| ハンプティ・ダンブティ | ねえ？ どうしてもだめかしら？ わたしのおはなしの『しゅじんこう』には あなたこそふさわしいのに……。 |
| ハンプティ・ダンブティ | いむらんがあなたにみせた たくさんのおはなしのだけよりも あなたがかがやいていたのに……。 |
| 選択肢A | 自分で決めたことだから |
| ハンプティ・ダンブティ | じぶんで……きめる……。 そう……あなたは……あたえられるのが いやだったのね……。 |
| 選択肢B | 自分はもう『英雄』らしいから |
| ハンプティ・ダンブティ | いおんの……いったとおりのね。 あなたは、わたしの『おはなし』よりも いおんの『おはなし』をえらんだ……。 |
| 選択肢合流 | |
| ハンプティ・ダンブティ | でも……おはなしには『しゅじんこう』が ひつようなの……。わたしだけの おはなしに……ほしかった……。 |
| キョータロー | 勝ったか？ ……勝った……んだよな？ |
| イムラン | ……どうやら、ここまでみたいだね。 すまないね。ボクはキミの望みを 果たしてやれなかった。 |
| ハンプティ・ダンブティ | ………。 |
| ハンプティ・ダンブティ | 私はハンプティ・ダンブティ！ こんにちは！ あなたが私のユーザーさん？ |
| ハンプティ・ダンブティ | お名前を教えてください？ これから一緒に楽しく暮らすためには お名前がわからないと困るから。 |
| イムラン | ……イムランだよ。 よろしくね、ハンプティ・ダンブティ。 |
| ハンプティ・ダンブティ | イムランね。これからよろしく！ ……それじゃあ早速だけど、 今日は何をして遊ぼうかしら？ |
| キョータロー | な、なんだよ……。 急に雰囲気が変わったっつーか……。 普通のACTっぽくなったっつーか。 |
| イムラン | うん……。どうやら、ボクと彼女に 起こった奇跡の時間は ここでおしまいみたいだ。 |
| イムラン | ボクがつかめたものは、根源では あったけれど……その断片の ようなものだったのかもしれないな。 |
| イムラン | ……イオン、っていったっけ？ さっきの質問の続きだけど、 改めて答えてくれるかな？ |
| イムラン | イオン…… キミは『何の』キャラクターなんだい？ |
| イオン | わたしは、イオン＝ミルナ。 なにを隠そう、このレイヤードと、 ユーザーさんの永遠のヒロインですっ！ |

| | |
|-------------|---|
| イムラン | 永遠のヒロイン……！？ つまりそれは、物語における不可欠の概念が……は、はは！ なんてこった！ |
| イムラン | 『英雄』たる【ユーザー名】に、『ヒロイン』であるイオンか……。 |
| イムラン | ……素晴らしい。素晴らしい関係だね。それはボクがいくら頑張っても届かないはずだ。 |
| イムラン | ハンブティは確かに物語の概念だった。けど、すべてはレイヤードという舞台があつてこそそのもの……。 |
| イムラン | 『永遠』のヒロインを知覚してはもはやそのままでは存在し得ない……。魔法は解ける。道理だね。 |
| イムラン | wiz-domはとつこのとくに、ボクごときのお膳立てなど必要としていなかった……というわけか。あはははは！ |
| ミヤコ | イ、イムラン様……。大丈夫……ですか？ |
| イムラン | いやいや、心配いらぬよミヤコ。ボクは全然平気。って言うか……あー！ スッキリした！ |
| イムラン | 予想外と言うのは、本当に面白いね！まさかこんな形で……ぶくくく！ あはははは！ |
| キョータロー | お、おい本当に大丈夫か？ なんか……壊れちゃってねーか？ |
| イムラン | ごめんごめん。本当に平気だから。いやー、本当に長いこと付き合ってもらつてありがとう。 |
| イムラン | キミ達のおかげで、また新しい研究に取り組む意欲が湧いてきたよ。これはまだ辞められないな、会社。 |
| イムラン | ハンブティ、初めてのお願いをするよ。取締役会議に出席するからスケジュールの調整を頼めるかい？ |
| ハンブティ・ダンブティ | はい！ |
| イムラン | それからミヤコ。彼らには十分な追加報酬を。稟議なんかすつ飛ばしていいからね。 |
| ミヤコ | はい、かしこまりました。……どうやらこれからは、私も少し楽をさせてもらえるみたいですわね。 |
| イムラン | そんなことはないさ。ボクにはまだまだ、知りたいことが山のようにあるんだ。 |
| イムラン | ……今日はその答えのうちのひとつを得たに過ぎない。それでも、大きな成果だけだね。 |
| イムラン | 【ユーザー名】、それにイオン……。キミ達と出会えて本当によかったよ。 |
| イムラン | マチスくんも、アデリアくんも、きっとそう思っているに違いない。何度でもおれを言うよ。ありがとう。 |
| イムラン | どうか、キミ達の英雄譚が美しいエンドマークを迎えられることを祈っているよ。 |
| | ■ライブハウス |
| イオン | シャティル社からの報酬、すべての受領を完了しました。ユーザーさん。 |
| キョータロー | シャティル製の全デバイスとソフトウェアの永久ライセンスに……こっちはなんだ？ |
| キョータロー | シャティル主催、協賛の全ステージにおける永久シード権だってよ。まだあるな……えーつと……。 |

| | |
|--------|---|
| キョータロー | ……ほんとデカイ仕事だったな。 けど……最後のアレは 結局なんだったんだろーな？ |
| キョータロー | イムランの実験だか研究に 付き合わされたとか…… そんな感じか？ |
| イオン | いつものようにユーザーさんが、 鮮やかに依頼を果たしたんですよ、 キョータロー。 |
| イオン | 今回の件で、ユーザーさんの注目度は これまで以上に高まっています。 ほら、見てください。 |
| イオン | 色々な企業からのイベント出演依頼が こんなにたくさん……むふふ。 |
| キョータロー | やれやれ、相変わらずだなイオンは。 【ユーザー名】、 仕事はちゃんと選んだほうがいいぞ。 |
| キョータロー | この調子じゃ、片っ端から引き受けて 休む暇がなくなっちまいそうだ……。 |
| イオン | ……すべての依頼に、 引き受ける旨を返信し終わりました。 また忙しくなりますね、ユーザーさん。 |
| キョータロー | って！ 言ってるそばから！ ……知らねー。俺、知らねーから。 |
| イオン | 心配はいりません。 ユーザーさんはレイヤードの英雄に なる定めの人ですから。 |
| イオン | このぐらいで音を上げるようでは 英雄とは呼べません。 そうですね？ ユーザーさん。 |
| キョータロー | ……なんつーか、その…… おまえもホント大変だな、 【ユーザー名】……。 |
| イオン | さあ、今日から新たな一歩です。 これからも真の英雄を目指して 頑張りましょう。 |
| イオン | もちろん、わたしも常にユーザーさんの そばでサポートします。 |
| イオン | これからもよろしく願いますね。 わたしのユーザーさんっ。 |
| | |